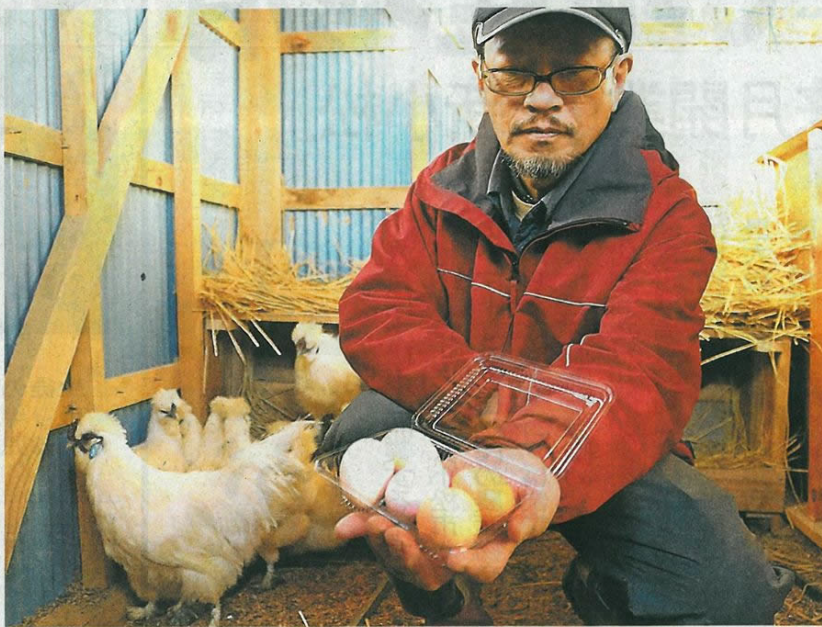


# 島育ちのウコッケイ卵 販売を開始

七尾市能登島向田町の住民有志がつくる向田町集落営農組合は8日、ウコッケイの卵の販売を開始した。高級品で知られる卵を、島の新たな名物に育てる。能登島の農産物を餌としてウコッケイを育て、そのふんを肥料にして農作物を育てる、環境に優しい循環型農業の確立を進める。

## 向田町営農組 ふんを肥料に

組合は昨年12月から、町内に建てた飼育小屋で、成鳥22羽を飼い始めた。1月下旬に入り、20羽の雌が、1日平均5個の卵を産み始めた。順調に生産が進んでいることから、8日に発売



組合は、2013年に発

足し、日本酒「能登島」の酒米作りや大根、白菜などの野菜を育て、同町の直売所で販売を行っている。昨年からは除草の目的で飼育を始めたウコッケイに田畑の草や大根の葉などを与え、ふんを肥料に作物を育てる。

卵を味わった住民は「普通の卵より味が濃く、卵掛けご飯にすると絶品だ」と太鼓判を押している。価格は1パック5個入りで500円とした。組合の松下高嶺専務理事は「今後は頭数を増やし、卵を安定して販売できるようにしたい。鶏ふんで育てる野菜の出来も楽しみだ」と話した。

ウコッケイの卵を集める松下さん 〓七尾市能登島向田町

# 能登島に 新名物

## 島の米生かした酒完成 道の駅に届く

### 観光協会青年部

能登島産の酒米を使った日本酒「能登島」860本が初めて完成し、8日に七尾市能登島向田町の道の駅のとじまへ届いた。11日から同所などで販売される。酒米栽培に取り組む能登島観光協会青年部は、島の新



日本酒「能登島」を手にする道の駅職員 〓七尾市能登島向田町

名物として日本酒を定着させたい考えだ。日本酒は一升瓶（1・8リットル）が2810円（税込み）で、完成した860本のうち660本は予約制で販売された。道の駅のとじまでは約50本が販売される。醸造したのは能登町宇出津の数馬酒造で、島内で収穫した酒米「五百万石」を使用した。10日には同町の伊夜比咩神社で酒米生産者らと奉納神事を行い、11日から市内で販売される。島内の民宿では、宿泊客に「能登島」を提供する予定で、石坂淳部長は「新しい能登島の味として地元の人や、観光客に楽しんでもらいたい」と期待した。